

会 議 録

会 議 名	令和7年度第1回棚倉町立学校統合準備委員会		
開催日時	令和7年6月26日(木)	開会	午後6時00分
		閉会	午後7時28分
開催場所	棚倉町役場 正庁		
会議次第	1 開 会 2 委嘱状交付 3 教育長あいさつ 4 委員長、副委員長の選任 5 協 議 (1)町立学校等統合に向けた組織体制について (2)児童生徒の推計について (3)学校等の統合年度について (4)その他 6 その他 7 閉 会		
傍聴者数	なし		
欠席した委員	石井由美子委員		
会 議 議 事 内 容			
1 開 会	事務局(白石課長補佐)		
2 委嘱状交付	委員名簿の選出区分毎に名前を呼名し各代表者に対し荒川教育長から委嘱状を交付した。 代表者：橋本義治委員(地域住民代表者) 金澤義一委員(保護者代表者) 齋藤雅彦委員(幼稚園、学校代表者) 石井二郎委員(学校教育識見者)		
3 教育長 あいさつ	荒川教育長		

4 委員長、副委員長の選任	委員長、副委員長の選任について図ったところ、委員から「事務局案の提示」の声があり、事務局の提案として、委員長に益子秀一委員、副委員長に川上一美委員を提案し、全体の拍手で承認を得た。	
5 協議 (1)町立学校等 統合に向けた組織体制について	益子委員が委員長就任のあいさつ後、議長となり議事を進行した。 事務局から資料P 4 と設置要綱、組織イメージ図を基に説明した。 事務局説明後、委員から下記の質問があった。	
	鈴木雅委員	私も令和4年度のこの「学びのあり方検討委員会」の委員の1人だったんですが、この意見書の中には、「統合小学校設立の検討と準備を進める」という文言は書いてあるんですが、今、事務局の説明ですと、その検討についての意見はこの場では出てこない。「統合ありき」ということで、それに「準備を進める」という形というふうに受けたんですが、この文言からすると「統合設立の検討」と「準備を開始する」ということになっていたと思うんですが、その辺の、我々の委員の意見というものは、聞かないという言い方はあれですけども、統合ありきでそういった方向で、どういう形にするかということ話し合う場なのか、その統合そのものについても色々な意見を聞きながら、どういう方向が一番いいのかということを検討する場なのか、というところをちょっと確認したいのですが。よろしいでしょうか。
	事務局	当時については、確かに「検討の開始と準備をお願いします」というようなことで書いてありますが、我々といたしましては、この後説明をいたすところではございますが、児童数、お子さんの減少数が当時の想定よりもかなり早いというような想定もしているところですので、この適正規模・適正配置についての検討はさせていただこうとは思いますが、統合は避けられないのではないかというようなことを考えているところです。ですみません。「統合の検討」ではなくて、「適正規模適正配置」は検討いたしますが、「統合の準

		<p>備は進めていく」というようなことで、前向きな準備、統合の準備ということをご理解いただきたいと思います。</p>
	鈴木雅委員	<p>私もその統合に関して云々ということではないですが、その意見交換会のこのチラシがあるのですが、この意見交換会、住民の意見交換会をやった時に、必ずその統合についての是非というか、その意見は必ず出てくると思うんですね。まあ統合ありきでどういう形にするかという意見交換会なのか、それとも、まあ人数が少ないから、やっぱり統合していくのかっていう意見交換ではなくて、たぶんそういう意見も出てくるのではないかと。その時に、まあ教育委員会、この準備委員会として、もう「学びのあり方検討委員会がこう言ってるから」というよりは、ここの意思統一をした上で、意見交換会に向かった方が、住民への理解っていうのは深まるのではないかという思いもあって、こういう意見を申し上げたんですけども。で、この検討委員会の意見書の方は「検討と準備」となっていますが、この準備委員会の設置要綱からすると「準備と検討」というふうに、まあその辺の文言の順番も違うんですけども、その辺も含めて、この委員会としてのスタンスと言いますか、それを明確にさせていただいた方がいいのかなと。</p>
	事務局	<p>学びの在り方検討委員会からの同一年度の出生者数が70名を完全に下回る状況が複数年続いた場合ということで、昨年度中の集計結果、令和4年度、5年度で70名を下回る状況が続いたところから、教育委員会部局・町長部局で話し合う町総合教育会議で出生者数の現状と学びのあり方委員会の意見を踏まえて学校統合を考えなければならないということを協議しました。その中でこれまでも徐々に児童が少なくなっていた学校から徐々に統合するよりは、建物の老朽化や今後</p>

		<p>の少子化の進行は避けられない状況で、これから回復する見込みは残念ながら非常に低いことから、町の学校を一斉に統合する方が良いのではないかという見解に達しました。その見解を持ってこの準備委員会と住民意見交換会には臨んでいきたいという趣旨でございます。</p>
	西牧委員	<p>棚倉幼稚園長の西牧です。今の話と関連するんですけども、その「学びのあり方検討委員会」に私は出席してませんでしたので、もう少しその検討委員会の中身を知りたいというか、あの、まあなぜここに、意見交換会の内容にも「なぜ統合するのか」というのがありますけども、まあこう少ない人数になってしまうと、子供たちの学びとか成長にとって良くないというか、デメリット、また小人数だからこそそのメリットもあるわけですよね。そういったところがちゃんと話し合われたのかどうかということを知りたいなと思います。まずそこからだと思うんですよね。あの統合ありきではなくて、やっぱり子供たちにとって小人数は、良くないよねとか、小人数もいいところがあるわけですよね。その辺のこう検討、中身のこと、子供たちの成長にとってどうなのかっていうところを話し合われたらなら、であれば、こういう風にメリットがあって統合するっていう風になったのかっていうことを、ちょっと知りたいなと思ったので、もし、検討委員会の中で、どのような話し合いをしたのか知りたいです。</p>
	事務局	<p>私自身は学びのあり方検討委員会が組織されていた時まだ教育委員会にいなかったもので、実際に検討委員会でどういう話しがされたのかという事は書類上でしか確認が出来ません。学びのあり方検討委員会の協議が行われていた時期というのが、高野幼稚園や高野小学校の子どもの数が減少してきた時です。その中で少人</p>

		<p>数の学びというものも確かにメリットがあるということなんですけども、これだけ少子化が進行していく中で、どこかのタイミングで学校統合というものはでてきてしまいます。判断基準が無い中でメリット、デメリットを考えたとしても、判断基準が無い中ではどういう方向で持っていった方がいいのかというのが話しをしにくかったというので、学びのあり方検討委員会の中では出生者数70名という基準を設け、クラス数にすると二学級出来るのでクラス替えが可能というメリットを考えれば、統合の判断基準としてこういった基準の基、状況が来たら考えていかなければならないという事で進んできたものと私は認識しています。</p>
	西牧委員	<p>その数的なこと以外にね、話しもありましたか？ 「なぜ統合するのか」っていうところで、やっぱり子供たちのその学びっていうところを中心に話していかないと、保護者の方とか住民の方っていうのは、納得いかないのかなと思うし、なぜ統合するのかって一番スタートの部分だと思うんですね。なのでそういうところは、ちょっと提示していただきたいなと思います。</p>
	委員長	<p>今のお話も踏まえて、まあ個人的にも思いはありまして、まあ委員長として言っていていかどうかってあるんですけど、やはり、ある程度規模の学校の必要性と小規模の学校の必要性と両方ある。多分、学びの検討委員会の中でもそういった議題の中で話題となっていたであろうというふうには認識しております。そんな中で、まあ事務局の中で考えてる運営というのは、先々の人数の減少が間違いなく出てくるだろうという中では、小規模の部分の学びのあり方をどういう形で、補助的に使っていくかっていうのも多分検討していかなくてはならないだろうと思ってるんですが、そういう形の中で一本化した統合という方向性が、必</p>

		<p>要なんではないかなって、個人的な思いはあります。その中で学びのあり方、小規模の、なかなか先ほど言ったように、登校できない子供さんであるとか、子供たちをフォローしていくかっていうところも合わせて、この準備委員会の中で検討していければ、あの先ほどおっしゃったような、統合ありきではあるけれども、フォローの部分が出てくるんじゃないかなと、ちょっと感じたところであります。まあ委員長の言葉と言いますか、あの個人的な意見ということでお聞きいただければと思います。その他皆様方から、せっかくの機会ですし、特にあのね、あの保護者の方々もいらっしゃると思いますので、どんな思いがあるか、ちょっとご意見あれば、統合につきましていかかでしょうか。</p>
	山口委員	<p>地域代表で選ばれました山口と申します。ただいま議論が交わされているようですけれども、まあこういう問題っていうのは手順を間違うと、かえって紛糾して迷惑がかかるということもございますので、その手順はやっばきちんとした考えでいかなきゃなんないなと。あの、私の記憶では過般、議会が開催されました、まあこれ言っているのか分かりませんが、この質問が再三出たという記憶がございます。その時の当局のお答えが、あの、この委員会で討議しますからというような答弁されていたような気がするんですけども。その、委員会は「この委員会」ということで、ちょっと確かめたいのと、もう一つはですね、あの、庁内で検討委員会、第1回やったんですね。その結果というか内容を説明できればちょっと聞きたいなと思います。いかがでしょうか。</p>
	事務局	<p>まず一点目のどこが方向性を決定していくのかというところなんですけども、最終的には棚倉町教育委員会と最終的には議会になります。その前段に統合準備</p>

		委員会と庁内の準備委員会になります。二点目の庁内検討委員会では本日の委員会と同じ内容を話し合いました。本日の議題について庁内の検討委員会で協議して、本日の議題となりました。
	山口委員	そうしますとあれですか、統合の検討委員会の会、庁内の委員会が、すでにその「統合ありき」のその内容を提示したと。
	事務局	はい、あの先ほどもお答えしたかと思うんですけども、昨年度中に役場内部の中で、検討委員会とは別ですけども、その教育委員会ですとか、あとは町長部局と教育委員会部局で行う総合教育会議、それらでもって統合の方向で、というような形はまとまっていたので。先日、開いた庁内検討委員会にも同じように、統合の方向で話は、協議はしております。
	山口委員	あの、正直私どもこの委員になってくると、あの、議会で答弁された内容はですね、その委員会に委ねるんだということがちょっとあったもんですから。その委員会ってのは「この委員会」を指しているのかどうかということがちょっと気になって。そうすると私どもこの委員会ってというのは、どれだけの材料で判断するのかと、いうことになるわけですね。その辺の配慮はどうだったのかという、まあ手順のことをちょっと、もう少し詳しく知りたいんですけど。
	事務局	まず、あの議会での答弁なんですけれども、この学校統合の関係については、昨年中の議会でも質問は出てました。その中では、あくまでも学校統合を前提として、昨年度ですから7年度から準備を開始していくことを考えておりますというような話をしております。そういったことに関して、どのような段階からの説明が行われてたのかということですけども、それにつきましては昨年の6、7月以降から、各地区の、小学校・幼稚園、PTA 役員会ですとか、学校運営協議会

		に参加させていただきまして、児童生徒数の推計ですとか、この学校統合についての方向性について説明をしてきたというような経緯がございます。
	山口委員	手順にこだわる訳ではないですが、委員になると住民から聞かれる場合がある、私どもも説明しなければならない、その場合に対応を心配している。現状では統合しないと皆さん知っていると思います。そこまでどう煮詰めていくのか教育長さんの考えを聞きたい。
	教育長	あの、私としては、冒頭お話ししたように、今のその児童生徒数の減少の状況からすれば、やはりこれは、町としては統合すべきだというふうに考えます。今が一番その学校の統合を考える、あるいは前提として考えるには、一番いいタイミングなのかな、時期なのかなというふうに思っております。ご指摘ありますように、その説明する時に、そういうことも含めて、しっかりと説明はしていきたいと思っておりますし、順序も、手順も踏んでいきたいとは考えております。
	鈴木雅委員	今の教育長の話と、議会の方にも質問があって、そういった方向に行くって言うのは委員の皆さんにもご理解をいただけたと思うのですが、再度になりますがここにいる委員は準備についての検討をするのであれば、まさにこの統合を皆さんからコンセンサスを取った上で準備をしていきたいと思いますとならないと、皆本当はどうなんだろうと疑心暗鬼の中で、意見を出しましょうと言っても中々言えないじゃないかと思うのですが、ぜひ、町の方向性はこうで皆さんの意見も頂きながら進めるというコンセンサスを取らないと、委員の皆さんもどうですかね。皆のコンセンサスを取った上で今後の委員会を開催するとしていかないと、段階を踏まないと地域から反発を食らうのは目に見えていると思います。ここの委員の皆さんのご理解を頂いて前

		向きに検討をしていきたいと思います。向きの検討をしていきたいと思います。向きの検討をしていきたいと思います。
	教育長	そのコンセンサスを得るためにも（２）児童・生徒の推計について、説明をしてご理解を頂いた方が良くと思いますので、先に進ませていただいた方が良く思うのですが。
	委員長	教育長からもありましたように次の協議に進んで行きたいと思います。
(2)児童生徒の推計について (3)学校等の統合年度について	委員長	関連があるため（２）と（３）を一括で説明を求めます。
	事務局	資料P 5からP 9及び別紙「園児・児童・生徒数の推計」より説明した。説明後、委員から下記の質問があった。
	橋本委員	子どもたちの事を第1に考えると、冒頭教育長からあったように皆平等に教育を受けられる環境があるべきと私も思います。しかし地元に戻れば統合？どうなのと疑問の声が上がるのは必須だと思います。その中で我々も情報は共有すべきであるし、我々も勉強して前に進めていかなくていけないと思います。統合年度がありましたがスケジュールを案として示された訳ですが、新しい校舎の建設場所が案として出ているのかお聞きしたいです。
	事務局	皆さん場所というのは一番気にするところかと思いますが、まずは、どういう学校にするのか。小学校だけにするのか中学校も一緒にして一貫校にするのかで、校舎の大きさも変わってくるし、体育館の面積も変わってきます。そこを決めてから場所は考えていくことになります。棚高跡地が取り上げられておりますが、有力な候補地のひとつであって、そこありきで考

		えてはおりません。
	事務局	<p>先ほど鈴木園長から準備委員会の委員の皆さんのコンセンサスが必要じゃないかという事でしたので、そこについて補足させていただきたいです。学校統合について、児童生徒の推計を説明しましたが、幼稚園新入園児の保護者は人数が一桁になると、その幼稚園に入園するべきかは悩まれると思います。悩んだ結果、違う幼稚園に行く選択をした場合、その上にある小学校に入学することは大いに考えられると思います。教育委員会としては推計を見た場合にそういった事が考えられると目の当たりに受け止めています。それを放置したまま保護者の方々の判断任せにしたのでは、教育委員会としてはそれは出来ないだろうと。なし崩し的に統合の方向に向かうよりも教育委員会として方向性を示した方が、保護者の方々にとっても適切ではないかということで考えております。来年再来年に統合した方がいいって事だとこれまた話が違うと思います。この少子化の進行度合いからすると5・6年後先には地区によっては別な地区の学校に通うかもしれないということで統合を進めることが適切ではと考えておりますので、委員の皆さまにも統合についてのご理解とコンセンサスを受けていただければと思います。皆さまいかがでしょうか。</p>
	西牧委員	<p>あまり難しく考えずに統合するメリットを言っただければと思います。地域や保護者の方にわかりやすく説明してもらえればと思います。メリットを前面に押し出して。</p>
(4)その他	事務局	<p>資料P10～P11より説明。 説明後、委員会ら下記の質問があった。</p>
	鈴木雅委員	<p>説明会の内容は分かりました。園や学校でも広く周知して多くの人に参加を願うも分かりました。この委員</p>

		<p>会の内容について確認ですが、統合については町の方向性として決まっていると言わないが、こういう方向性だと言うことをご理解いただくということが1つ、また、統合に向けての条件については準備委員会で報告を受けると思いますが、内容については先ほども各部会で検討する事になる。ということですね。</p>
	事務局	<p>住民意見交換会で出た意見を、庁内検討委員会や準備委員会で報告させていただいて、直ぐ答えが出せるものか、それとも部会や委員会でもって答えを出さなければいけないものか、というような形で進めさせていただければと思います。</p>
	鈴木雅委員	<p>ありがとうございます。また資料で統合に向けての案で年度が具体的に示された訳ですが、我々委員としては意見交換会の前には外に流しても良いのでしょうか。</p>
	事務局	<p>この会議が公開の会議ですので、今日の内容につきましては特に秘密にすることではございません。</p>
	教育長	<p>先ほどは山口委員から、あの質問があった件で、今回の議会の中で私が答弁した内容なんですけども、要は、要旨で言えば統合を前提としてこれから、2つの委員会で話はします。でも先ほど出ました場所とか、それからその形態、つまり、小学校と中学校一緒にするのかとか、についてはやっぱりこの委員会で、それから庁内の委員会で議論していくというふうにお答えしておりますので、そこは確認させていただきます。</p>
	鈴木英委員	<p>棚倉保育園保護者会長の鈴木です。保育園の保護者代表としまして、この(3)の統合年度、近津幼稚園が令和10年度として、棚倉幼稚園に統合できるというふうに進めますと書いてありますが、棚倉保育園の方も、例えば、幼稚園と保育園が一緒のこども園のように、棚倉保育園もその幼稚園と一緒にする方向性を考えていただきたいなと思ひまして。他の町村、例えば</p>

		<p>矢祭町も、こども園ができてますので、棚倉も他の町村と考えると、棚倉もそういうこども園の創設を考えていただきたいなと思ひまして、ちょっと私の会長としての意見となります。以上です。</p>
	事務局	<p>私どもの子ども教育課で保育園も担当しておりますので、その実情について把握しているつもりですが、今回の委員会の中での協議事項とは別な事項で考えさせていただきたいと思ひます。どういった形になるかは未定ですが、この先子どもの数を踏まえて町としてどういった形で保育の実施を担保していくかについては、これから検討させていただきたい。</p>
	塩田委員	<p>棚倉中学校のPTA会長しております塩田と申します。今の発言と近いものがあるんですけども、この統合に関しての話し合いと一緒に考えることとはならないと思ひますけれども、今年度から「多様化学校」っていう形で高野小学校の中に、不登校で行けない中学生たちが学ぶ場所を作っていたらと思ひますけれども、あとそういった形を小学生の中でも、不登校の子たちを、そういう多様化学校の方でも受け入れる体制も考えているっていうことを以前お聞きしてたんですけども、この統合した場合もやっぱり不登校のお子さんたちっていうのは、学校に行けないっていう状況ってあると思ひますね。ですので、やっぱり統合した中でも「多様化学校」という形は、残していただきたいというか、検討していただきたいなというふうに考えております。以上です。</p>
	事務局	<p>ありがとうございます。学びの多様化学校ですが、形としては棚倉中学校の分教室という形ですので、今後、学校の形態が小学校だけになるのか、小学校の統合だけになるのか、それとも小中合わせた義務教育学校等になるのかにもよりますけれども、小学校だけってなれば、棚倉中学校は残るわけですので、その場合</p>

		<p>は当然ながら分教室も、形としては残ります。義務教育学校として小中合わせて義務教育学校となった場合については、ここはちょっと国・県の方と確認してからでない、はっきりとしたことは申し上げられないんですけども、分教室を設置させていただいて、運営させていただいて、それなりの効果を今現在実感してる以上、どんな形、小中学校一緒の統合学校になった場合であっても、そういった学校に行きづらい子のための、学び場所、居場所の必要性は十分感じておりますので、そこはちゃんと対応していきたいと考えております。以上です。</p>
	委員長	<p>その他なければ協議を終了いたします。 ありがとうございました。</p>
6 その他	事務局	特になし
7 閉会	事務局	午後7時28分終了